

5-6 河川水質健康項目調査結果

(定量下限値を超えた項目と地点名)

河川名	測定地点名	年平均値 (mg/L)
かゞみん(環境保全目標値 0.01mg/L)		
猪名川	利倉橋	0.005
鉛 ( 同 0.01mg/L)		
穂谷川	淀川合流直前	0.006
天野川	淀川合流直前	0.005
恩智川	福栄橋下流100m	0.005
古川	徳栄橋	0.005
平野川	城見橋	0.005
	東竹洲橋	0.007
淀川左岸幹線 第1水路	市境	0.005
楠根川	新家東橋	0.005
春木川	春木橋	0.005
近木川	近木川橋	0.005
見出川	見出橋	0.005
トリクロエチレン( 同 0.01mg/L)		
安居川	淀川合流直前	0.0005
第二寝屋川	下城見橋	0.0007
平野川分水路	天王田大橋	0.0006
平野川	南弁天橋	0.0010
	城見橋	0.0007
大正川	平野川合流直前	0.0007

河川名	測定地点名	年平均値 (mg/L)
ジクロロメタン(環境保全目標値 0.02mg/L)		
寝屋川	住道大橋	0.007
	今津橋	0.007
恩智川	福栄橋下流100m	0.008
	三池橋	0.020
第二寝屋川	下城見橋	0.007
長瀬川	第二寝屋川合流直前	0.013
平野川分水路	天王田大橋	0.005
平野川	南弁天橋	0.013
	城見橋	0.006
	東竹洲橋	0.011
大正川	平野川合流直前	0.008
東横堀川	本町橋	0.005
百舌鳥川	北条橋	0.015
トリクロエチレン( 同 0.03mg/L)		
穂谷川	淀川合流直前	0.002
第二寝屋川	巨摩橋	0.003
	下城見橋	0.003
長瀬川	第二寝屋川合流直前	0.005
平野川	南弁天橋	0.011
	城見橋	0.002
1,1,1-トリクロエタン( 同 1mg/L)		
平野川	南弁天橋	0.001

- 記載のない地点、項目では平成10年度の全ての測定で定量下限値未満。  
よってそれら地点・項目の年最大値、平均値は定量下限未満との表記になる。  
【例： 淀川(枚方大橋・左岸)のかゞみんは上表に記載がないので、年平均値 < 0.005mg/L となる】  
但し環境基準値が「検出されないこと」となっている項目(全シアン、アルキル水銀、PCB)については、'ND' と表記する。(ND: 未検出の意味)  
なお、本府での定量下限値は次のとおり。(\*: 年平均値、最大値を'ND' と表記する項目)

健康項目の定量下限値 (mg/L)							
	*	*				*	*
かゞみん	全シアン	鉛	六価クロム	砒素	総水銀	7メチル水銀	PCB
0.005	(0.1)	0.005	0.02	0.005	0.0005	(0.0005)	(0.0005)
ジクロロメタン	四塩化炭素	1,2-ジクロロエタン	1,1-ジクロロエチレン	シス-1,2-ジクロロエチレン	1,1,1-トリクロエタン	1,1,2-トリクロエタン	トリクロエチレン
0.001	0.001	0.001	0.005	0.01	0.001	0.002	0.002
トリクロエチレン	1,3-ジクロロベンゼン	チウラム	シマジン	オキサベン	ベンゼン	セレン	
0.0005	0.001	0.003	0.001	0.005	0.005	0.005	

- 測定地点は、表5-7参照。全地点で(7メチル水銀を除く)全項目を年1回以上測定。
- 環境保全目標(環境基準)は、全シアン及び総水銀以外は年平均値で判断。全シアンは最大値。  
総水銀についての適否の判定は、年間の測定値が0.0005mg/Lを超える検体数が調査対象検体数の37%以上である場合を不適とする(昭和49年12月23日付け環水管第182号)とされている。  
なお、平成10年度においては、総水銀は全地点の全測定で検出されなかった。
- アルキル水銀については、原則として総水銀が検出された場合のみ測定を行っているため、平成10年度は測定を行わなかった。
- 平成11年2月22日に追加となったフッ素、ほう素、硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素の3項目は除く。